



2023年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2022年 7月29日（金）

ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証スタンダード市場）

- 売上高 5,863百万円 (前年同期比+1.8%、上期予想進捗率48.9%)
 - マテリアルソリューション事業は原材料価格高騰に伴う売価転嫁値上げ等により前年同期比増
 - アドバンステクノロジー事業は仕入れ販売を行うディスプレイ用拡散板販売が不振

- 営業利益 342百万円 (前年同期比△19.2%、上期予想進捗率122.3%)
 - マテリアルソリューション事業は原材料価格の高騰により前年同期比マイナス。一方、予想に対してはプラスで推移。これは第1四半期における原材料価格上昇の影響が当初想定より限定的であったことおよび販売管理費削減によるもの
 - アドバンステクノロジー事業は主に自動車向け販売を行うデコレーション&ディスプレイ分野の好調が利益に貢献

- 当期純利益 2,194百万円 (前年同期比+486.2%、上期予想進捗率113.7%)
 - クレアナイト(株)(旧:(株)ウェーブロックインテリア)の株式譲渡により、特別利益2,528百万円を計上。これにより同社の全株式の譲渡完了

(単位：百万円)

	2022年 3月期 第1四半期 (実績)	2023年 3月期 第1四半期 (実績)	前年同期比 増減率	5/13公表 上期予想	上期予想比 進捗率
売上高	5,760	5,863	+1.8%	12,000	48.9%
営業利益	424	342	△19.2%	280	122.4%
経常利益	536	466	△13.0%	285	163.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	374	2,194	+486.2%	1,930	113.7%
1株あたり 当期純利益(円)※	38.26	260.19	-	228.79	-

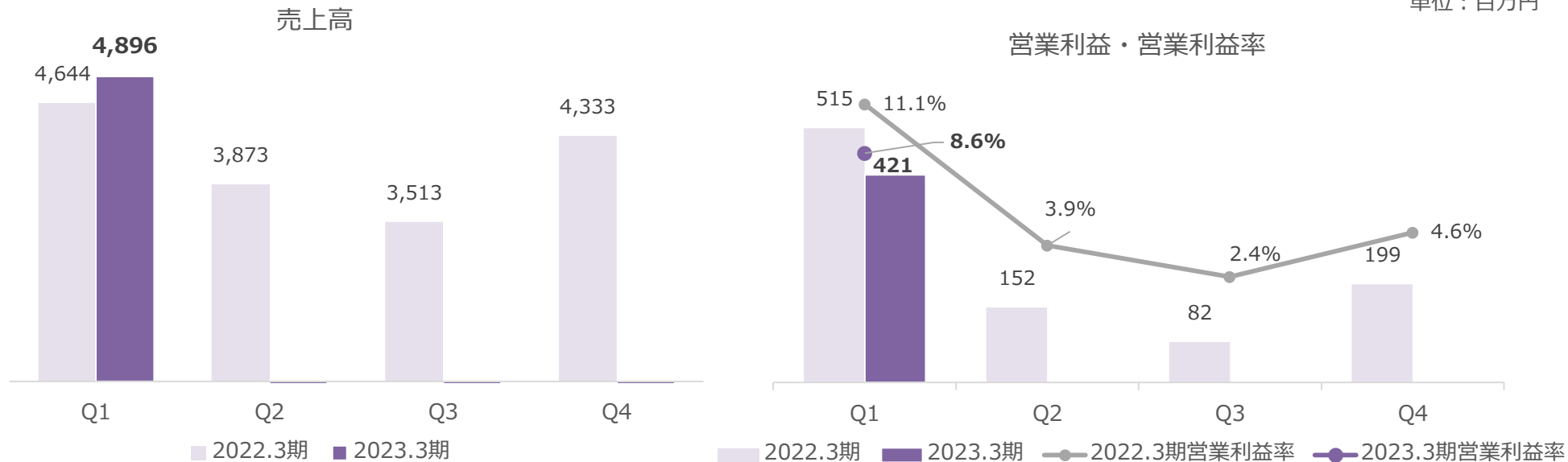
※発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により算出。期中平均株式数は、2022年3月期第1四半期は9,785,849株、2023年3月期第1四半期は8,435,849株

セグメント別情報

(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期 (参考値)	2023年3月期 第1四半期 (実績)	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	5,760	5,863	+103	+1.8%
材料ソリューション	4,644	4,896	+252	+5.4%
アドバンステクノロジー	1,121	969	△ 151	△13.5%
その他	△ 5	△ 2	-	-
営業利益	424	342	△ 81	△19.2%
材料ソリューション	515	421	△ 93	△18.2%
アドバンステクノロジー	86	115	+29	+34.7%
その他	△ 177	△ 194	-	-

単位：百万円



リビングソリューション：

- ホームセンター向け販売は一昨年の巣ごもり需要からの反動減が続いていることに加え、3年ぶりに行動制限のないG.W.となったこと等を背景にホームセンター自体の客足が伸びず、売上高、利益ともに前年同期比減

ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- 大型商業施設向けの防煙垂壁用高透明不燃シートやサイクルカバーは好調に推移
- 一方、建設・仮設工事関連向け販売は原材料価格上昇分の売価転嫁値上げを5～6月に実施したものの苦戦。特に利益において原材料価格の高騰が値上げに追い付かず前年同期比大幅減

パッケージングソリューション：

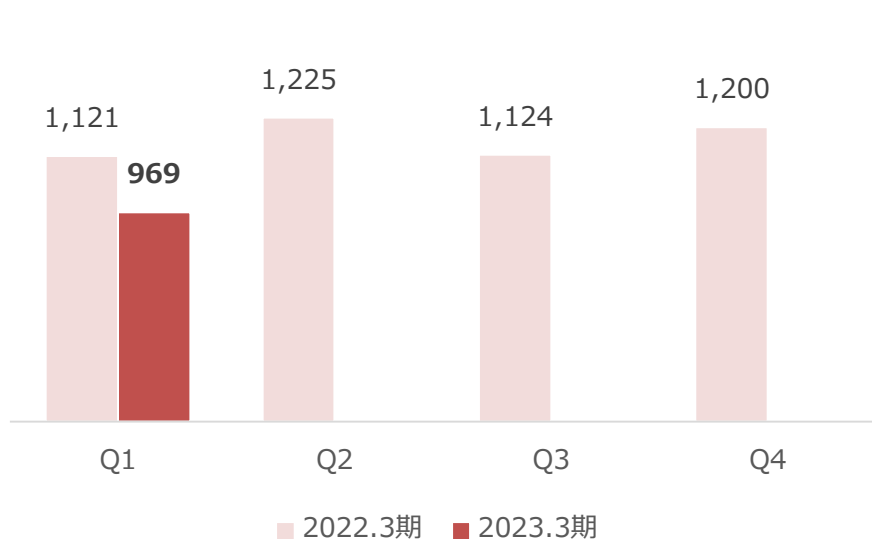
- ヨーグルト容器向け販売の堅調や原材料価格上昇分の売価転嫁値上げにより売上高伸長も、利益においては原材料価格の高騰が値上げに追い付かず前年同期比大幅減

アグリソリューション：

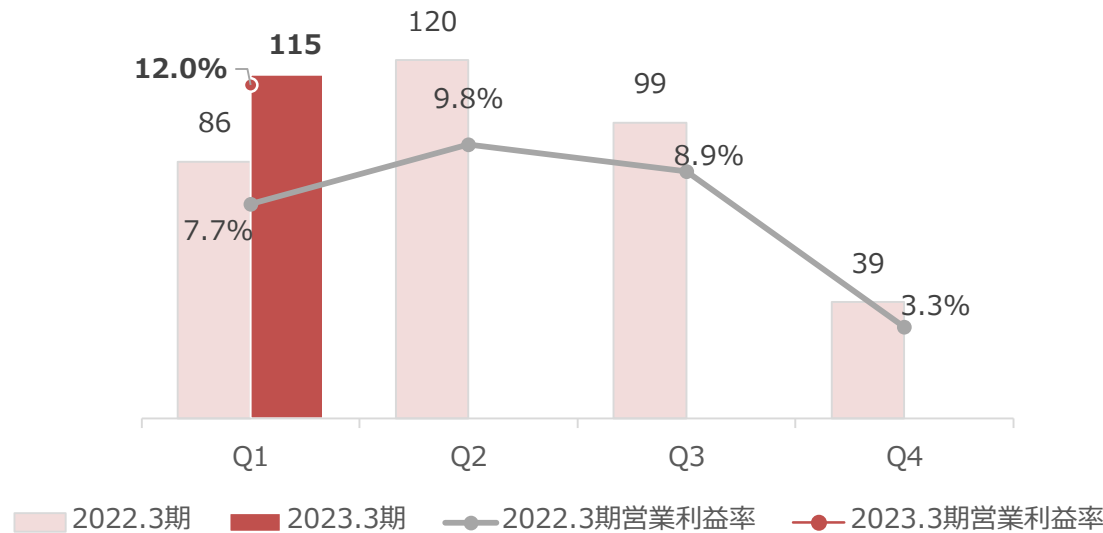
- エネルギーコスト上昇により国内農業生産者の資材への投資意欲は減退するも、土木・林業向け、物流倉庫向け落下防止ネット販売がカバー

単位：百万円

売上高



営業利益・営業利益率



デコレーション&ディスプレイ（金属調加飾フィルムおよびPMMA/PC2層シートから名称変更）：

- 金属調加飾フィルムにおいては、北米EV車の本格量産開始やインド・東南アジアにおける2輪車向け販売が好調に推移し利益を獲得。中国自動車メーカー向けはロックダウンの影響により苦戦するも、今後は回復を見込む
- 自動車向け内装ディスプレイ用途の高透明二層シートにおいては、先進運転支援システムの開発ツールとして期待されるVRヘッドセット用部材への新規採用があったものの、自動車向け販売は上海ロックダウンの影響を受け前年同期比減。下期に予定する一関工場移設に伴う工場稼働停止に備え、備蓄生産を実施。これにより利益は前年同期比増加

その他：

- ディスプレイ用拡散板は一昨年からの巣ごもり需要の反動減等を受け売上高は大幅に減少。これにより連結全体の売上高は前年同期比減。ただし仕入れ販売のため利益への影響は些少

業績予想修正と今後の見通し

■ 前提条件を変更し、第2四半期以降の業績予想を見直し

- 第1四半期の売上高実績は概ね計画どおりに推移したものの、**営業利益は第1四半期時点で上期予想を超過**
- 期初想定した国産ナフサ価格前提を下回ったことが超過要因のひとつ**
- 一方、第2四半期以降の国産ナフサ価格平均は期初想定以上の上昇が予想され、為替についても期初想定以上に円安が進む見通し
- これらを勘案し、**第2四半期以降の前提条件を変更したうえで業績予想を見直す**

	国産ナフサ価格 (円/kl)	為替 (円/USD)
期初業績予想 (前提)	70,000~80,000	125
第1四半期 (実績)	64,600	129



第2四半期以降 (前提)	81,800	135
--------------	--------	-----

(単位：百万円)

	5/13公表 上期予想	上期予想 修正	従来予想 からの 増減比	5/13公表 通期予想	通期予想 修正	従来予想 からの 増減比
売上高	12,000	12,000	-	24,400	24,400	-
営業利益	280	450	+60.7%	590	590	-
経常利益	285	570	+100.0%	595	710	+19.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,930	2,190	+13.5%	2,130	2,240	+5.2%

■ 上期予想

✓ 売上高および営業利益：上方修正

マテリアルソリューション事業

- 第1四半期において当初想定より原材料価格上昇の影響が限定的
- 販売管理費削減

アドバンステクノロジー事業

- 高付加価値製品を扱うデコレーション&ディスプレイ分野において、金属調加飾フィルムの自動車向け販売が好調。加えて高透明二層シートでは、下期に予定する一関工場移設に伴う工場稼働停止に備え、上期を中心に当初想定以上の備蓄製造を予定。これにより上期の利益増加

✓ 経常利益および当期純利益：上方修正

第1四半期において為替差益および保険解約返戻金を営業外収益として116百万円計上

■ 通期予想

✓ 売上高および営業利益：据え置き（セグメントごと売上高および営業利益予想も据え置き）

マテリアルソリューション事業

- 第2四半期以降の原材料価格の高騰および円安の影響を見込む。原材料価格の上昇分の追加値上げ交渉を進めるも、業績反映までのタイムラグ等を考慮

アドバンステクノロジー事業

- 下期において、一関工場の移設により一時的に製造を停止することの影響を考慮

✓ 経常利益および当期純利益：上方修正

上期修正を受け通期においても上方修正

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。